口絵１． 青葉の森公園周辺の景観変化－明治 10 年代（「M.A.P. の会」 1995 年制作）

口絵２． 青葉の森公園周辺の景観変化－昭和 40 年代（「M.A.P. の会」 1995 年制作）

口絵３． 青葉の森公園周辺の景観変化－平成６年頃（「M.A.P. の会」 1995 年制作）

口絵４―１． 開園当初の青葉の森公園と周辺の宅地造成地：平成４年（1992 年）頃

中央博物館が開館した 1989 年から数年経った頃の青葉の森公園とその周辺を撮影した斜め空中写真である。公園内には中央博物館や芸術文化ホールなどの建物が見られ、生態園も整備が進んでいる。公園の周辺は宅地造成がほぼ終了し、平坦で広大な造成地がつくられている。口絵４―２は、この写真の２年ほど前の状況を示す地形図であるが、大網街道の北側の造成地の部分は、まだ台地と谷（谷津）の地形が残っている（赤い矢印）。この後、台地を削り、谷津を埋める大規模な地形改変が行われた。

口絵４―２． 平成２年（1990 年）頃の地形

国土地理院１万分の１地形図「千葉東部」（昭和 60 年編集、平成２年修正、平成６年発行）の部分を加工して作成

千葉中央博研究報告特別号（J. Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba, Special Issue) (12): 5–6, March 2024

鳥瞰図で見る青葉の森公園周辺の景観変化

八木令子

千葉県立中央博物館
〒 260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
E-mail: yagi@chiba-muse.or.jp

（2024 年 2 月 17 日投稿 ; 2024 年 2 月 22 受理）

要　旨　千葉県立中央博物館本館と生態園がある県立青葉の森公園とその周辺の景観や土地利用の変遷について，明治 10 年代，昭和 40 年代，平成 6 年前後を想定して製作された 3 枚の鳥瞰図を基に概観する．

キーワード：鳥瞰図，景観，地形，青葉の森公園．

青葉の森公園は，千葉市の中心部を流れる都川左岸の標高 25m ほどの台地に位置する．この地域については，昔の地形図や聞き取り，現地調査などを基に明治期から平成初頭にかけての景観を復元した 3 枚の鳥瞰図がある（口絵 1 ～ 3）．これらを基に博物館や生態園が位置する土地の成り立ち，それぞれの時期の土地利用の変遷や千葉市の市街地の拡大などについて概観する．

台地と谷津の時代

口絵 1 は，陸地測量部の迅速測図原図復刻版 No.677（明治 14 年測量）を基に，当時の景観を描いたものである．

下総地域は，海岸や河川沿いの低地を除き，「台地」と台地を刻む「谷津（やつ）」の地形からなる．谷津は縄文海進で入江の奥まで入り込んだ海が，その後退いていく過程で形成された底面の広い谷地形で，砂や泥などの軟弱な沖積層からなり，天水や谷壁からの湧水（しぼり水）による水田耕作が行われてきた．口絵 1 の中央の舟田池は，南に延びる谷津の谷頭部に位置し，江戸期から溜池（用水）として利用された（図 1）．松並木の街道（旧東金街道）がその脇を通っている．

この時期，東京湾岸の低地も水田が広がっており，集落の立地は海岸線に平行に延びる微高地（砂州）上にほぼ限られている．埋立前の遠浅の海岸線（干潮で干潟が出ている），都川の河口三角州など，自然の地形が見られる．

図 1． 明治～大正期に描かれた絵はがき（個人蔵）
現在の野鳥観察舎のある場所から，舟田池と中央博本館が建つ台地を描いたもの（別の建物がある）．この時期，まだ舟田橋はない．

畜産試験場の時代

1917（大正 6）年から 1980（昭和 55）年まで，現在の青葉の森公園一帯は農林水産省の畜産試験場となっていた（口絵 2）．場内にはサイロや牛舎などの建物が並び，台地と谷津の地形からなる緩やかな牧草地で牛が草を食んでいる．

昭和 40 年代は都川の低地に住宅が広がり，市街化が進んだ．台地も宅地化が進んでおり，舟田池の南側の谷津は盛り土され，谷津田はなくなっている．池の最上流部

図 2． 昭和 40 年代の舟田池と舟田橋（1973 年 3 月）
現在本館がある場所に畜産試験場の建物が建っている．

も道路が通ってせき止められてしまったが，現在も残る舟田橋が架けられている（図 2）．

東京湾岸は埋立が進み，人工海岸となっているが，埋立地の土地利用はまだあまり進んでいない．

青葉の森公園の時代

1980（昭和 55）年に畜産試験場がつくば市に移転すると，跡地の大部分は県立青葉の森公園として整備されることになった（口絵 3）．

この時期，低地も台地にも住宅が密集し，都市近郊では大規模な土地開発が行われるようになっていった．公園の周辺部は，住宅都市整備公団（現 UR 都市機構）が担当する千葉寺土地区画整理事業区域となり，台地を削り，谷津を埋めて起伏の小さい広大な造成地がつくられた（口絵 4）．千葉市の中心部（千葉駅周辺）や湾岸の埋立地の建物の高層化も進んだ．

青葉の森公園予定地は，畜産試験場の名残りで，台地と低地の地形がある程度残されているが，舟田池の西側は千葉寺から延びる道路用地のため埋め立てられ，池の大きさと形が変化した．また舟田池の水を抜いて底の土を入れ替え，新しい池として再生させた．舟田池をはさんで中央博物館の本館と生態園が設置され，その後芸術文化ホールなども建てられた．房総地域の代表的な植生タイプの復元を目指す生態園の整備に当たっては，既存の自然環境を保全・活用することを基本とし，土地造成や土壌改良などの基盤整備を行った．生態園内では，地盤の高さで最大 3.3m の切り取りと，最大 4.2m の盛り土が行われたが，造成工事が行われた地域の多くは，地盤高の変化が ±0.2m であり，比較的小規模な地形改変であった（山口・中村 ,1994）．

口絵について

口絵 1 ～ 3「青葉の森公園周辺の景観変化」は平成 7 年（1995 年）に，「M.A.P. の会」により制作された．制作メンバーは下記のとおり．

構図・監修：山口裕一
着彩・仕上げ：永野達代
下図作成：永野達代・沢田光之助・草場明子・永野鐘治・菊地正彦
構図補佐：手代木玲
製作・調整：草場明子

引 用 文 献

山口　剛・中村俊彦（1994）：生態園の整備に伴う地形，土壌，植皮の 変化 . 千葉中央博自然誌研究報告　特別号 1：19-31.

Changes in the Landscape around Aoba No Mori Park, Chiba City Seen from Three Bird's Eye Views

Reiko Yagi

Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
E-mail: yagi@chiba-muse.or.jp

Aoba no Mori Park, which has the Natural History Museum and Institute, Chiba and the Ecology Park, is located on the terrace on the left bank of the Miyako River in Chiba City. There are three bird's eye views showing the changes in the landscape of this area drawn based on old maps and field surveys. These materials have revealed the original landform, as well as changes in land use in the 10s of Meiji (1880s), the 40s of Showa (1960s), and the beginning of the Heisei era (1990s).

Key words: Bird's eye view, Landscape, Landform, Aoba no Mori Park.